



続・増穂薪窯通信

てんやわんや

文・写真 増穂登り窯太田治孝

8月、増穂登り窯から見た雲海

第4回

作品、どうしていますか？

個展やグループ展に出品した作品はたまっています。友人が購入してくれるなどすればありがたいのですが、なかなか難しいものです。

読者の皆さんも、毎号好みの作品を制作しているとしたら、かなりの点数の作品を持っているのではないのでしょうか。カップや皿や鉢などであれば家庭で使用したり、友人へのプレゼントにしたりと役立ちますし、盆栽鉢や睡蓮鉢はいつものまにか、どこかの庭先になじんでしまいます。ですが、陶人形や灯り、オブジェなどは、制作したくとも完成作品をどこに置かかか悩んでしまうということがあります。

増穂登り窯では、富士山の文化遺産登録を記念して、周辺のオーグニック野菜の販売とのコラボレーション展を試みました。タイトルは「陶山水・オーグニック野菜の皿夕展」です。



茶碗の展示会場（増穂登り窯）

「陶山水」は「枯山水」のもじりです。枯山水は、石組みと文様をつけた砂や小石を用いて山水を表現する庭園の形式であることはご存じのとおりです。

増穂登り窯は東に富士山を望み、北には南アルプス連山櫛形山（2000m）がもたらす湧き水の川があります。約1000坪の敷地内には胡桃、栗、桐など、落葉樹が繁り、そこに8基の薪窯と工房があります。



富士川町の地元農家を作ったオーグニック野菜。不揃いだが味は抜群

花器であれ、オブジェであれ、そして不思議なことに茶碗までもが所を得て生き生きしてきます。皆さんも自宅の庭や別荘の芝生の上などに、一度自作の作品を展示してみてください。自分の隠れた才能に気づくかもしれません。そして誰かの目に留まります。友人たちと一緒に計画してはいかがでしょうか。海の砂浜などに展示してのランチもおすすです。

今回のコラボレーション展でオーグニック野菜を陶皿に盛って知ったのですが、固定種のオーグニック野菜は、形も小さく不揃いでしたが、その香りと味は昔のままです。自然の庭の中で花器に花を生けても無意味です。そこで、このオーグニック野菜を皿に生けてみました。小さなトマトの紅色とゴーヤの緑がマッチした造形となりました。オーグニック

昨年、一昨年と熱海市池田満寿夫記念館の庭園と長野市松代町の池田満寿夫美術館の中庭での陶作品の展示実績を踏まえ、今回窯場での「陶山水展」となりました。陶作品は、雨水には強く、庭園での展示に適しています。作品はよくよく観賞していただければ幸いです。窯場の立地条件を活かして、赤松の丸太、柵板、赤松割木、レンガなどを利用して周辺のスペースに無造作に展示してみました。富士山を見ながら、井桁に組んだ赤松割木の香りを嗅ぎ、川のせせらぎを聞いてみると、緑の中に展示されている作品たちが生き生きと見えてきます。



中庭の展示場（増穂登り窯）

野菜は変形した姿がおもしろいので、今回は野菜の種類を増やして大盛りで生けるチャレンジをしてみようと思います。陶作品を自然の懐に展示する「陶山水」とオーグニック野菜とのコラボレーションは、窯場の位置する条件から生まれたアイデア企画でした。陶遊の読者も一度チャレンジしてはいかがでしょうか。

いつものギャラリーの室内展示から野外に出ると、作品の魅力が一段とアップします。オブジェだけでなく、灯りには火を入れてみるのも面白そうですし、器だっただけでも十分に鑑賞できます。陶とオーグニック野菜のコラボレーションの試みはこれからも続けていきます。

陶山水 in 六本木 皿夕、野菜夕、『皿夕展』

棚田でできた無農薬、手植え、手刈り、天日干しの新米限定販売します！
 ■『皿夕』パーティー 10/25（水）17～20時
 会費 500円 / 1名 ワイン実費 300円 / 1杯
 ※ 増穂登り窯地元のオーグニック野菜と白ワインが並びます。
 ■ミッドトーキーギャラリー
 東京都港区
 六本木 7-4-14 2F
 TEL 03-6434-5633

